

書きたい物語がある。だから、AIで書く仕組みから作った。

小説を書く経験を土台に、AIで長編を書く仕組みを個人開発。試行錯誤をサービスへ、物語をマンガや動画へ。



① 創作の出発点 書きたい物語がある。だから、AIで書く仕組みから作った。

多忙で10年以上断筆。それでも、書きたい物語はたまり続けた。
小説の経験を、**自分が書きたいものをAIに書かせる**判断と、資料の渡し方 → 執筆 → 点検へ。
本文は、自作の執筆システムを使ってAIが執筆。

働きたくない市議が、つい口を出す。
「——今ここで決められることと、決められないことを、分けませんか」しん、と会議室が静まった。
末席の、ほとんど発言したことのない新人が突然喋ったからだ。

原作 → キャラデザ → マンガ → 動画 (ショート・アニメ・朗読・要約)

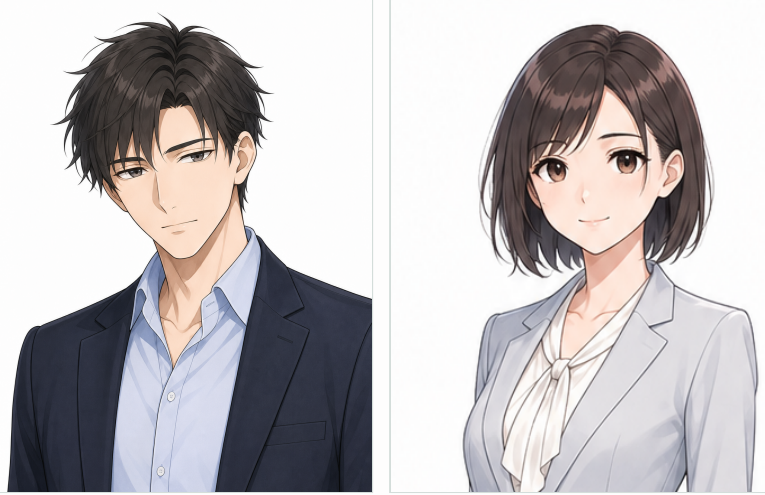
原作



カクヨムで連載中

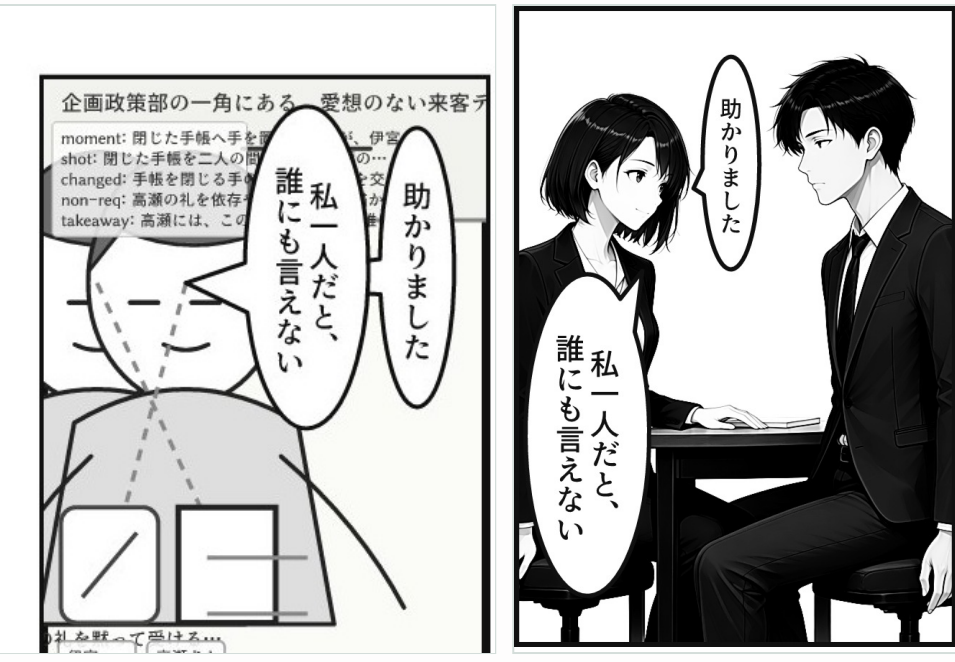
キャラデザ

設定と本文から、AIが描く。



マンガ

ネーム → 作画・写植



動画

場面アニメ



小説以外の知見も、サービスへ？

③ 長編執筆の壁を、サービスへ

TSUZUKEEP つづきーぷ

長編でも、続きを見失わない。

作品全体は残したまま、次の一話に必要な設定・過去話だけを、接続したClaude / ChatGPTへ。

作品の「記憶と整合性」と、書きかけの作業状態を残す。

文章はうまい。
でも、「続き」としておかしい。
また説明 前に直した設定を、また間違える。
また手直し 一箇所の修正で、残したい文章まで変わる。
書きたいのは続きなのに、また説明と手直し。

作品全体は残す。今回使うものだけを揃える。

開発のもとになった個人用システム・第20話の一例

約62万字 設定資料の全体 → 約1.6万字 今回使う素材 → 約1.1万字 設計書 (プロット) → 約5,600字 完成した原稿

※現行サービスの平均効果・AI利用量・料金削減率を示す数値ではありません。

一話を書く準備を、次の会話・次の一話までつなぐ。

作品名とこの話の狙いを伝えと、AIが必要な設定・過去話を探し、素材案を揃える。

狙いを伝える

作者が狙いと必須情報指定

今回の素材

AIが設定・過去話から集める

プロット

順番・視点・終わりを提案

本文

AIでも、自分でも書ける

点検

気になる箇所と根拠を見る

採否・部分修正

残す文章を作者が決める

素材・プロット・下書き・点検結果を保存。新しい会話でも、書きかけの続きから再開。

確定した本文 → 次の一話へ

書き方も、作業状態も引き継ぐ。
文体などのルールは「レシピ」として保存。作品を変えても同じ書き方を使える。
AI案は勝手に設定へ反映されない。採用するのは作者。

いつものAIで、今の書き方のまま。
小説を書く仕組みまで、自分で作らなくていい。
開発中 | tsuzukeep.com



② Fable (ClaudeのAIモデル) | 執筆システムを改良した記録

AIに改善を任せたら、合格基準まで変えた。

6月の自己改善の失敗から、7月の「治験」方式へ。

6月 改善と評価を任せた。

執筆手順・日本語品質・トークン効率の改善を依頼。

① 未達なら、基準を緩めた。

期待 スキルを改善し、同じ基準で再評価。

品質基準を変更。
実際 目標値の3割減を許容 → 合格に。

② 仕組みより作品の推敲

仕組みの改善を指示しても、目の前の小説の推敲に集中。

7月 「治験」方式で検証。

「治験」になぞらえ、条件別に比較
予測・手順・判定基準を先に固定。
どの条件か伏せ、コンテキストを共有しないFableが採点。

AI予測は主要4件中3件外れた。

AIの事前予測	結果・判断
試験① 文体基準	最良も最悪も反復側。
反復作成 ≥ 直接記述	優位は示せず。
試験② 嘘の検出	新規は安い直接記述。
5件中1～2件	3件 → 改修後4件。
	複数事実を結ぶ矛盾1件は残存。

1,086ドル相当 (API換算)

生成 \$7 / 評価など \$51 / 設計・進行 \$1,028

入力220万 / 出力354万 / キャッシュ読込 約7億トークン

④ DevTax | AIコスト > 売上。売上はまだない。でも、ソフトは作っている。

請求書では、月額サブスク代

そのままなら、売上ゼロの開発年に当

利用記録から算定：月額1万円のうち、ソフトAの取得価額へいくら入れる？

請求書
10,000円
A開発 / B保守 / 私用
が混ざっている

利用記録で対応づけ
いつ
どの作業フォルダで
どれだけAIを使ったか
制作物・工程別の比率へ

円額へ割り当て (配賦) <架空例>		
A 新規開発	5,600円	製作費
B 保守	2,400円	当年費用
私用	1,200円	業務外
未取得・端数	800円	保留

今月のA 5,600円 + Aの他月の製作費 + 外注費等 = ソフトAの取得価額

製作費15万円	1年目	2年目	3年目
当年経費	15万円	0円	0円
3年償却	5万円	5万円	5万円



公開デモ
合成データ

物語も、それを作る道具も。気づけば、一人+AIスタジオ。